

安心協 I L A S
2 0 1 5 年度 最終報告書

2016 年 3 月 31 日
安心ネットづくり促進協議会
普及啓発作業部会
I L A S 検討サブワーキング

内 容

はじめに	-3-
1. 本年度の活動方針と体制	-4-
1-1. 調査対象	
1-2. テスト問題	
1-3. テスト形式	
1-4. ILAS 検討サブワーキング体制	
1-5. テスト実施協力者の一覧	
2. 調査結果総論.....	6-
2-1. 対象別×設問別の分析	
2-2. 対象別×属性別の分析	
2-3. 対象別×利用状況別の分析	
2-4. 対象別×啓発経験別の分析	
2-5. 対象別×インターネットの適切利用自信別の分析	
2-6. 保護者のしつけ自信×正答率の分析	
2-7. その他（参考情報）	
3. 安心協 I L A S の活動総括	-16-
3-1. 啓発活動への連携	
3-2. 来期に向けた課題	
4. 来期の活動方針	-18-
5. 安心協 I L A S の活用事例	-19-

はじめに

今回 3 年目となる「安心協 I L A S」の調査と検証は、青少年のインターネット環境整備に取り組む安心ネットづくり促進協議会が、活動の一環として主に保護者と青少年を対象にインターネット・リテラシーを可視化しようとする試みである。

引き続き総務省が青少年のインターネット上の危険・脅威に対応する能力を可視化するために定めている指標：I L A S (Internet Literacy Assessment indicator for Students) の 7 つのリスク分類を採用する形で、研修会の機会等を活用して比較的短時間で誰でも協力可能なテストとするために、平易な表現で最新かつ具体的な設問内容に努め、多くの関係者の協力を得て今年度の調査を完了した。

今回分析、検証した結果は単なる分析にとどまらず、青少年や保護者のインターネット・リテラシー向上に取り組む当協議会及び会員企業・団体等の各地での普及啓発活動や、安心安全サービスの提供・改善につなげていくことを目指している。

1. 本年度の活動方針と体制

安心ネットづくり促進協議会の調査研究委員会傘下で活動を行ってきた I L A S 検討作業部会については、2015 年度から普及啓発広報委員会（普及啓発活動作業部会）傘下のサブワーキングとして移管し、活動を実施してきた。昨年度に引き続き、安心協 I L A S では総務省が ILAS の取り組みにより定義をした 7 項目のリテラシー分類をもとにして、小学生から大人まで短時間で実施ができるテスト及び解説集を作成。啓発活動への連携を目的として、小学生から保護者までを幅広く対象として調査を行った。

1-1. 調査対象

総務省 I L A S は高校生をインターネット・リテラシーの指標対象として調査するのに対し、安心協 I L A S では昨年度に引き続き、啓発活動への連携を目的として、小学生から保護者までを幅広く対象とする。また保護者のアンケートにおいては、小学生を持つ保護者、中学生を持つ保護者、高校生を持つ保護者が分かるように行い、実施においてもバランスを鑑みて行うこととする。

※インターネットを安心安全に活用するためのリテラシー分類（大分類 3・中分類 7）

1. インターネット上の違法コンテンツ、有害コンテンツに適切に対処できる能力	
1-a	違法コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる
1-b	有害コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる
2. インターネット上で適切にコミュニケーションができる能力	
2-a	情報を読み取り、適切にコミュニケーションができる
2-b	電子商取引の問題を理解し、適切に対処できる
2-c	利用料金や時間の浪費に配慮して利用できる
3. プライバシー保護や適切なセキュリティ対策ができる能力	
3-a	プライバシー保護を図り利用できる
3-b	適切なセキュリティ対策を講じて利用できる

1-2. テスト問題

昨年度同様、総務省が I L A S の取り組みにより定義をした 7 項目のリテラシー分類を元に作成。問題の種類は【保護者・中高生用】を基本として、読解力に依存しない調査とするため【小学生用】を別に作成。全 2 パターンで各 21 問とする。

基本的には大幅な修正は行わない指針とするが、以下の視点で設問の修正が必要なものは修正を加えることとした。

- ①「意味が分からない」率が著しく高い
- ②正答率が他の設問に比べ大きくかい離がある（カテゴリ分析などでバランス悪い）
- ③直近の環境変化に伴う修正

1-3. テスト形式

【保護者・中高生用】「3 択式」

【小学生用】「○× 2 択式」

昨年度同様、「言葉の意味が分からない＝△」を選択肢に加え、問題の理解度を正誤とは別の観点で分析を行うこととする。

1-4. ILAS 検討サブワーキング体制

以下の体制でサブワーキングの運営を行った。

リーダー 齋藤 長行 氏 (株式会社 KDDI 研究所 研究主査)

参画団体・事業者 ※順不同

内閣府、総務省消費者行政課、総務省情報通信政策研究所、警察庁、インターネットコンテンツ審査監視機構、一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構、NPO 法人企業教育研究会、KDDI 株式会社、ソフトバンク株式会社、安心ネットづくり促進協議会 (メンバー 15名)

1-5. テスト実施協力者の一覧

No	都道府県	実施	対象	協力人数
1	栃木県	栃木県高等学校 PTA 連合会	保護者	151
2	神奈川県	川崎市 P T A 連絡協議会	保護者	1015
3	福島県	福島県立相馬農業高校	保護者	51
4	福島県	福島県立葵高校	保護者	48
5	福島県	福島県立安達高校	保護者	47
6	福島県	福島県健全育成委員会	保護者	15
7	福島県	福島県立相馬農業高校	高校生	82
8	大阪府	羽衣学園高等学校	高校生	198
9	神奈川県	河合塾 横浜校	高校生	85
10	静岡県	浜松北部中学校	中学生	131
11	千葉県	南流山中学校	中学生	470
12	千葉県	安孫子第二小学校	小学生	153
13	千葉県	千葉平山小学校	小学生	156
14	岐阜県	関安桜小学校	小学生	166
15	神奈川県	川崎日吉小学校	小学生	234
	7 都道府県	全 15 箇所 保護者 6 箇所 青少年 9 箇所 (高校 3 校 / 中学校 2 校 / 小学校 4 校)	保護者教員 1,261 人 高校生 365 人 中学生 601 人 小学生 709 人	3,002 人

協力依頼にあたり、「一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会」、「公益社団法人日本 PTA 全国協議会」、「NPO 法人企業教育研究会」に実施趣旨のご理解、ご協力をいただいた。

2. 調査結果総論

2-1. 対象別×設問別の分析

図表 2-1-1 より、保護者の正答数の中央値は 20・最頻値は 20、高校生の中央値は 19・最頻値は 21、中学生の中央値は 19・最頻値は 21、小学生の中央値は 17・最頻値は 18/19 という結果から、昨年度の調査に引き続き、正答数の分布図は高得点層に偏った結果となった。

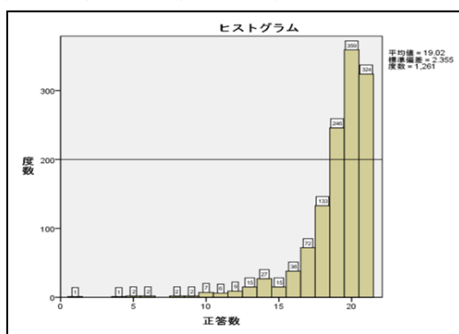
図表 2-1-2 では、7 項目のリテラシー分類別の正答率を示しており、全体的に「1a 違法情報への対応」の正答率が低く、中学生では加えて「3b 適切なセキュリティ対策」、小学生では加えて「3a 適切なプライバシー保護」が低い結果となった。

図表 2-1-3 より、全対象に共通して「no9. 歌詞の著作権」、「no11. 出会い系サイト規制法の理解」、「no14. 環境整備法」、「no19. セキュリティソフトの知識」の正答率が低い傾向となった。

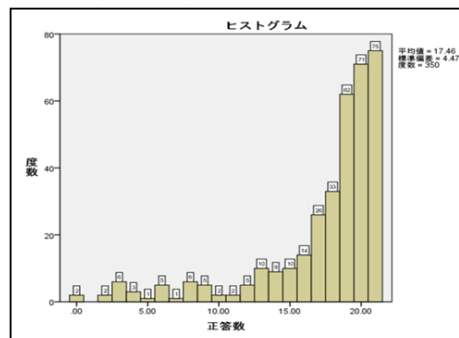
図表 2-1-4 では、設問ごとの不認識率（各設問の全回答の中で、「言葉の意味がわからない」を選択した割合）を示しているが、「no19. セキュリティソフトの知識」に関しては、全対象に共通して不認識率が高い傾向。中高生では「no14. 環境整備法」と「no21. ウィルス対策」、小学生では、「no3. 著作権侵害」「no9. 歌詞の著作権」「no11. 出会い系サイト規制法の理解」の不認識率が高い。特に小学生では「法律違反（著作権）」などの語句に対して馴染みが薄いと思われる。

図表 2-1-1. 基本統計量と正答数分布図

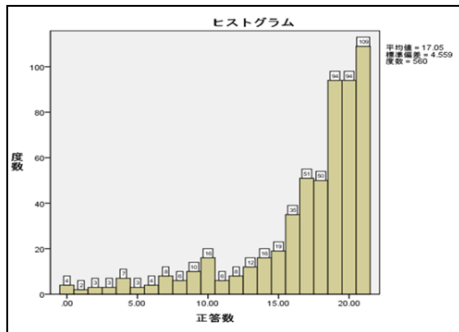
保護者			
正答率	中央値	最頻値	標準偏差
90.6	20	20	2.35



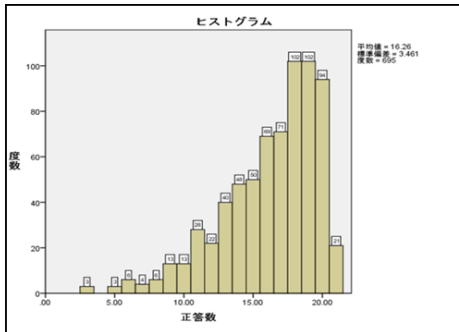
高校生			
正答率	中央値	最頻値	標準偏差
83.1	19	21	4.48



中学生			
正答率	中央値	最頻値	標準偏差
81.2	19	21	4.56

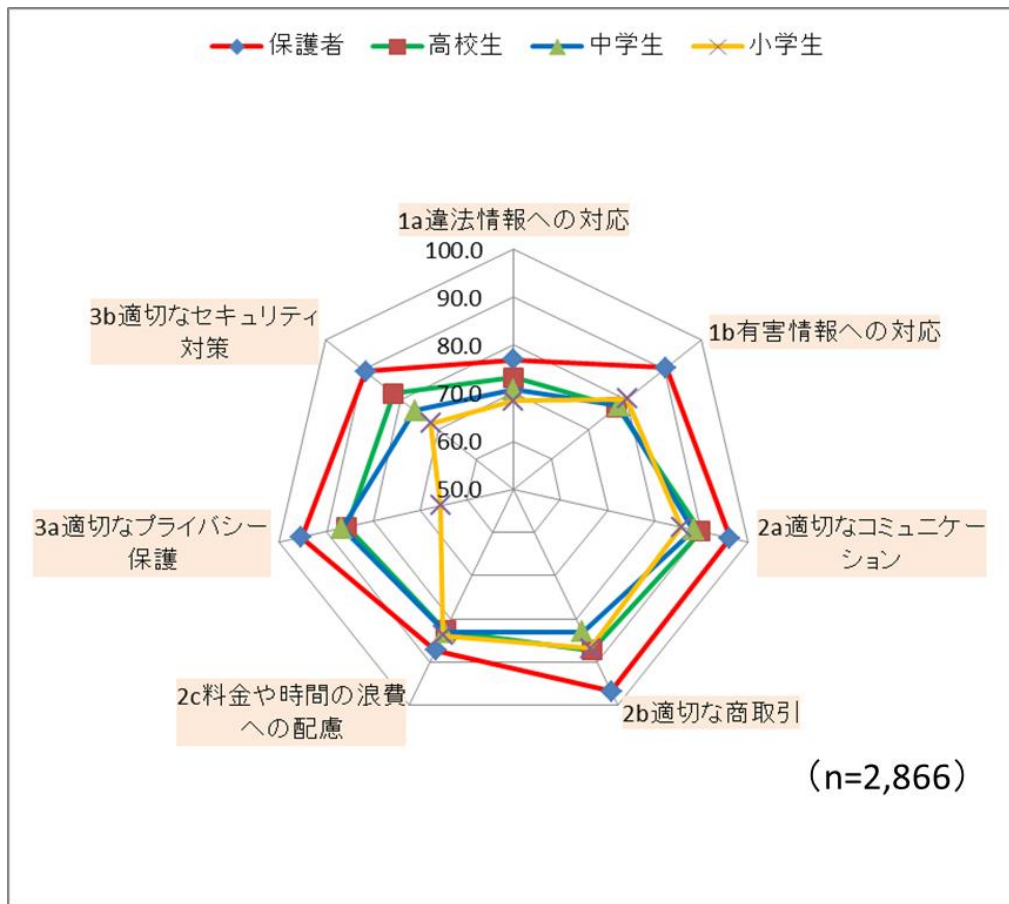


小学生			
正答率	中央値	最頻値	標準偏差
77.4	17	18/19	3.46



※全問回答の場合を有効回答とし集計対象とした。(保護者 1,261 名、高校生 350 名、中学生 560 名、小学生 695 名)

図表 2-1-2. 7項目のリテラシー分類別の正答率



	保護者	高校生	中学生	小学生
1a違法情報への対応	77.0	73.3	70.7	68.4
1b有害情報への対応	90.6	77.5	77.9	80.2
2a適切なコミュニケーション	96.2	89.9	88.4	85.8
2b適切な商取引	96.8	87.3	83.0	86.9
2c料金や時間の浪費への配慮	87.2	82.7	83.1	83.9
3a適切なプライバシー保護	95.4	85.7	86.7	65.6
3b適切なセキュリティ対策	89.4	81.9	76.2	72.0

図表 2-1-3. 保護者と青少年の設問ごとの正答率（詳細表）

設問	リスク分類	設問の趣旨	正答率 (%)			参考 ¹
			保護者	高校生	中学生	小学生
1	2c 料金時間への配慮	ゲームの利用時間に対する配慮	91	80	86	97
2	1b 有害コンテンツ理解	フィルタリング設定の必要性	95	86	85	88
3	1a 違法コンテンツ理解	違法ダウンロード：著作権侵害	89	83	81	74
4	2a 適切なコミュニケーション	ネットいじめに対する理解	97	91	87	78
5	3a プライバシー保護	アプリに対する理解	96	85	85	91
6	3a プライバシー保護	撮影と掲載許可	98	92	92	85
7	3b 適切なセキュリティ対策	歩きスマホに関する理解	94	83	82	85
8	1b 有害コンテンツ理解	ID 交換掲示板に対する理解	90	77	79	81
9	1a 違法コンテンツ理解	歌詞の著作権に対する理解	76	64	70	64
10	2c 料金時間への配慮	ゲーム課金の対応と知識	73	78	76	82
11	1a 違法コンテンツ理解	出会い系サイト規制法の理解	66	73	61	67
12	2c 料金時間への配慮	ネット依存に対する理解	97	91	88	72
13	2a 適切なコミュニケーション	揉め事があった際の対応	94	87	88	93
14	1b 有害コンテンツ理解	環境整備法に対する理解	87	69	69	72
15	3a プライバシー保護	掲示板への対応	92	80	82	21
16	2b 電子商取引の理解	不正請求への対応	97	89	85	96
17	2a 適切なコミュニケーション	不適切投稿リスクの理解	97	91	90	86
18	2b 電子商取引の理解	クレカの使用者範囲の理解	96	82	75	78
19	3b 適切なセキュリティ対策	セキュリティソフトの知識	80	77	66	71
20	2b 電子商取引の理解	怪しげな儲け話への対応	98	89	90	87
21	3b 適切なセキュリティ対策	ウイルス感染に対する理解	94	86	80	60

※正答率の赤字は、正答率 80%未満（特に低いもの）を示している

※設問部分の網掛けは、共通して正答率が低い設問を示している

¹ 保護者・高校生・中学生は同様のテスト問題（3択式）で実施したため、結果の比較分析が可能であるが、小学生は別のテスト問題（〇×式）であるため、保護者・高校生・中学生との比較対象分析はせず、参考データとする。

図表 2-1-4. 保護者と青少年の設問ごとの認識不足率² (詳細表)

設問	リスク分類	設問の趣旨	認識不足率 (%)			参考
			保護者	高校生	中学生	小学生
1	2c 料金時間への配慮	ゲームの利用時間に対する配慮	7.4	11.6	6.0	0.1
2	1b 有害コンテンツ理解	フィルタリング設定の必要性	3.3	5.8	7.8	5.1
3	1a 違法コンテンツ理解	違法ダウンロード：著作権侵害	3.1	5.8	10.0	20.5
4	2a 適切なコミュニケーション	ネットいじめに対する理解	0.6	3.9	3.4	8.5
5	3a プライバシー保護	アプリに対する理解	3.1	8.9	8.9	5.0
6	3a プライバシー保護	撮影と掲載許可	0.6	3.6	3.4	2.3
7	3b 適切なセキュリティ対策	歩きスマホに関する理解	0.7	3.6	2.9	7.0
8	1b 有害コンテンツ理解	ID 交換掲示板に対する理解	4.5	7.2	10.7	12.5
9	1a 違法コンテンツ理解	歌詞の著作権に対する理解	4.5	6.4	9.6	16.8
10	2c 料金時間への配慮	ゲーム課金の対応と知識	14.4	9.1	9.4	4.7
11	1a 違法コンテンツ理解	出会い系サイト規制法の理解	7.5	4.7	8.6	19.4
12	2c 料金時間への配慮	ネット依存に対する理解	0.6	3.3	7.2	19.0
13	2a 適切なコミュニケーション	揉め事があった際の対応	4.2	6.1	5.7	3.4
14	1b 有害コンテンツ理解	環境整備法に対する理解	5.8	11.1	14.4	23.7
15	3a プライバシー保護	掲示板への対応	4.2	7.2	6.7	17.1
16	2b 電子商取引の理解	不正請求への対応	1.0	4.7	4.1	1.4
17	2a 適切なコミュニケーション	不適切投稿リスクの理解	1.7	4.7	5.5	8.1
18	2b 電子商取引の理解	クレカの使用者範囲の理解	1.2	9.2	11.1	10.2
19	3b 適切なセキュリティ対策	セキュリティソフトの知識	10.4	12.2	15.6	22.9
20	2b 電子商取引の理解	怪しげな儲け話への対応	1.7	5.3	6.9	8.9
21	3b 適切なセキュリティ対策	ウイルス感染に対する理解	3.9	8.0	13.0	25.5

※認識不足率が特に高いものは赤字で示している

※設問部分の網掛けは、共通して認識不足率が低い設問を示している

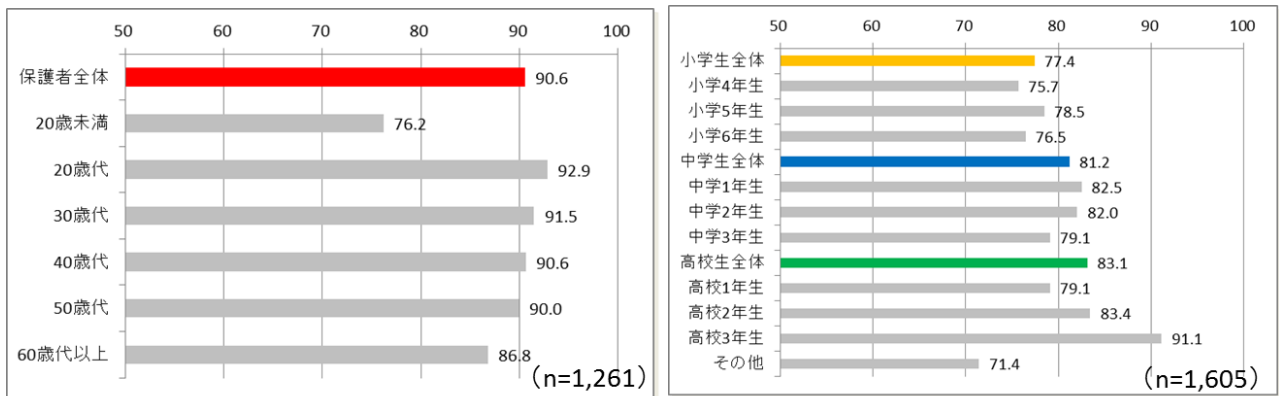
² 各設問の全回答の中で、「言葉の意味がわからない」を選択した割合

2-2. 対象別×属性別の分析

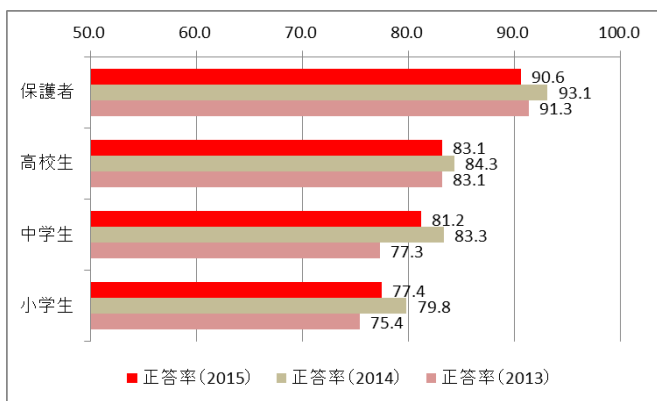
図表 2-2-1 より、保護者の正答率は年齢ごとではほぼ変わらず、青少年では学齢が低くなると正答率が低くなる結果となった。

図表 2-2-3 では、性別ごとの正答率を示しているが、保護者と小学生は男女差はほぼ無く、中高生は女性のほうがリテラシーが高い結果となった。

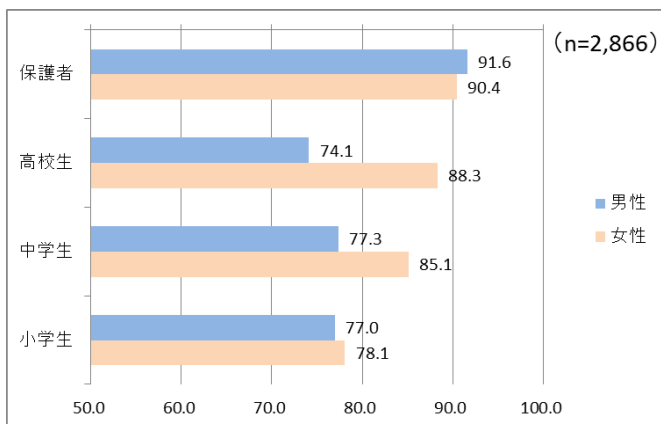
図表 2-2-1. 保護者と青少年の正答率と内訳



図表 2-2-2. 保護者と青少年の正答率（経年比較）



図表 2-2-3. 性別ごとの正答率



2-3. 対象別×利用状況別の分析

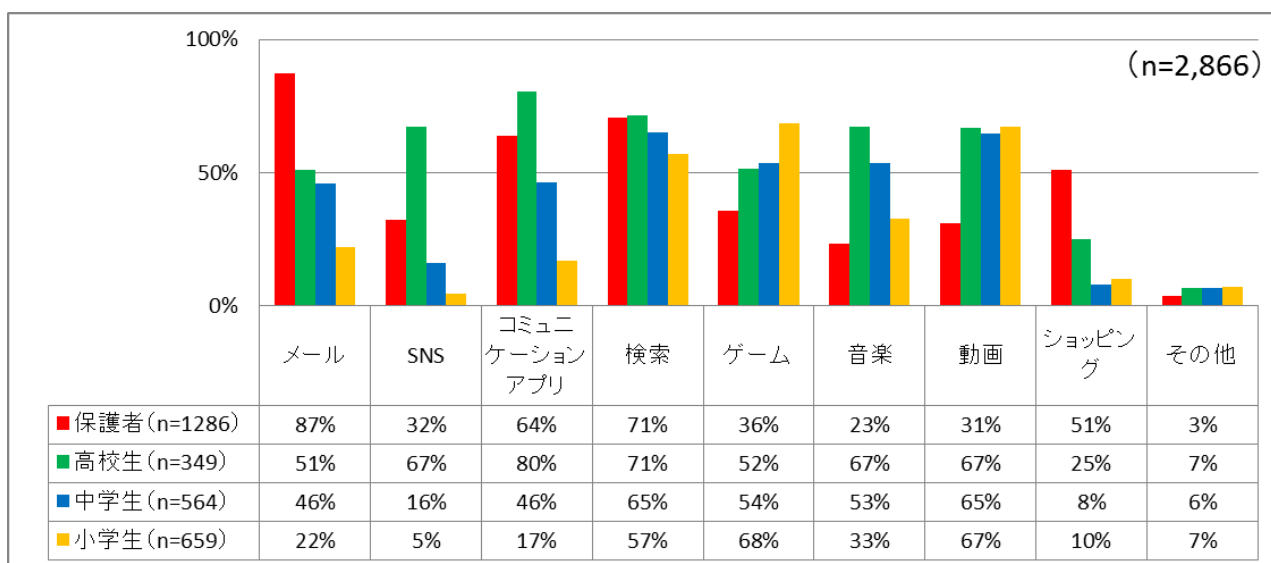
図表 2-3-1 では、保護者と青少年におけるインターネットの利用内容を示しており、保護者はメール (87%)・コミュニケーションアプリ (64%)、高校生はコミュニケーションアプリ (80%)・SNS (67%)、中学生は動画 (65%)・ゲーム (54%)・音楽 (53%)、小学生は動画 (67%)・ゲーム (68%) が上位と、対象毎に利用内容が異なる結果となった。特に高校生のコミュニケーションアプリ・SNS 利用は他の年代よりも高い傾向にある。

図表 2-3-2 では、青少年におけるインターネットの利用期間を示しており、高校生では 87%、中学生では 72%、小学生では 65% が 1 年以上利用していると回答している。

図表 2-3-3 では、インターネットの 1 日の利用時間を示しており、高校生では、約 63% が 1 日 2 時間以上モバイルインターネット利用しており、保護者の利用は他の対象と比べて少ないと言える。

また図表 2-3-4 と図表 2-3-5 において、「利用時間と正答率」、並びに「利用期間と正答率」に関して、分散分析を行った。その結果、それぞれ有意な差があることを示している。これは、インターネット利用の初期段階 (利用なし～利用半年間) では、リテラシーが低い傾向にあり、トラブルが起きやすいことが想定され、また利用時間に関しては、全く利用しないのではなく、ある程度利用経験はあるものの、利用し過ぎず、適度に利用をコントロールできている青少年がリテラシーが高いことを示しており、今後の啓発活動の指針となりうるデータと言える。

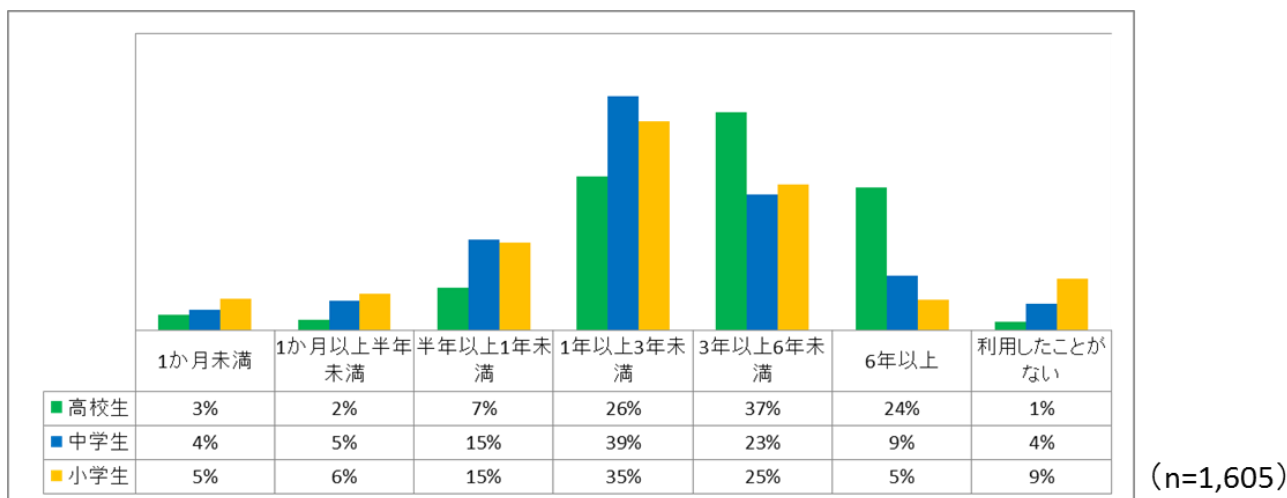
図表 2-3-1. 保護者と青少年におけるインターネットの利用内容 (複数回答)



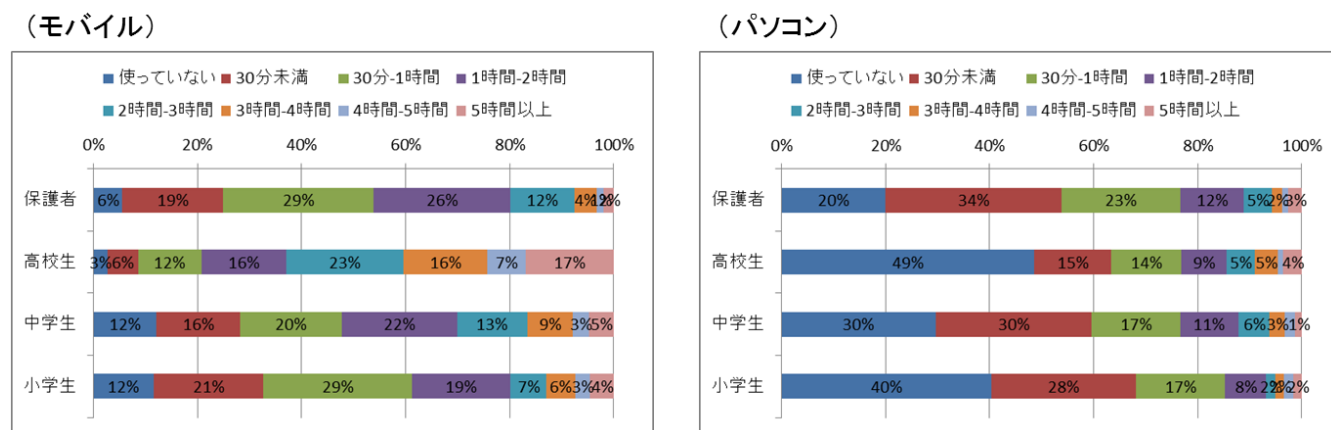
※SNS (Facebook・Twitter など)

※コミュニケーションアプリ (LINE など)

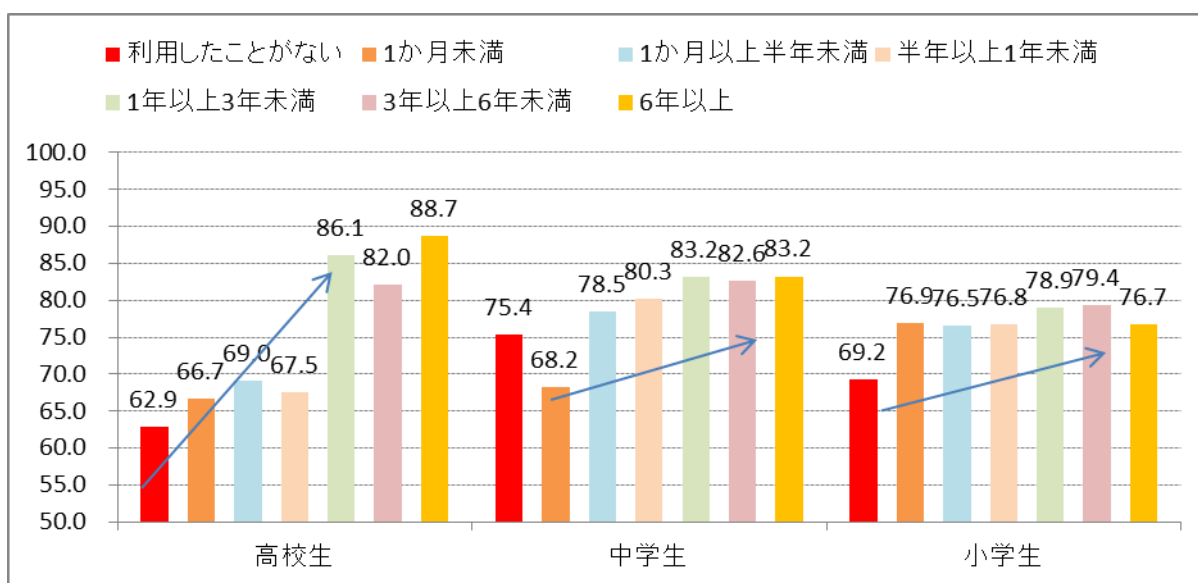
図表 2-3-2. 青少年におけるネットの利用期間



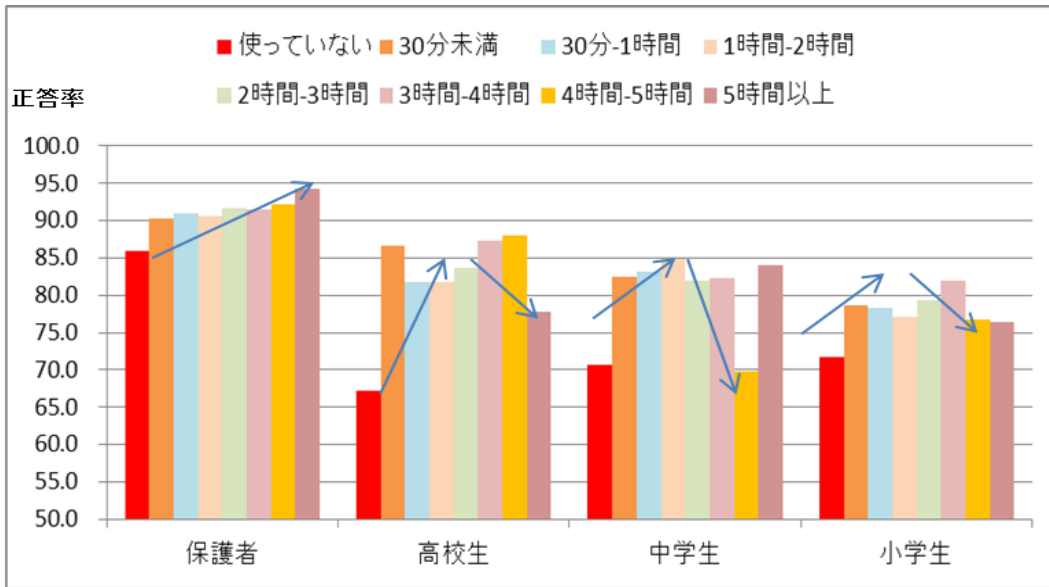
図表 2-3-3. 保護者と青少年におけるインターネットの1日の利用時間



図表 2-3-4. ネットの利用期間と正答率



図表 2-3-5. ネットの1日の利用時間と正答率



2-4. 対象別×啓発経験別の分析

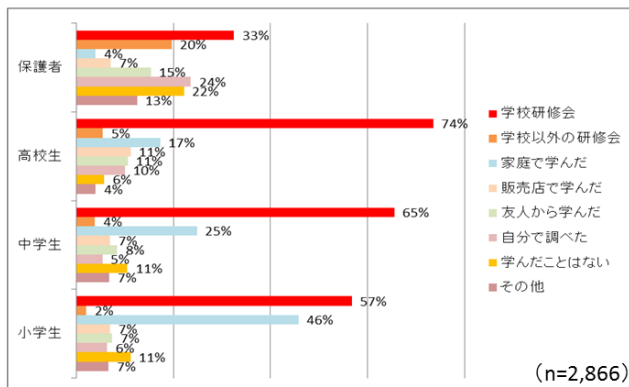
図表 2-4-1 より啓発教育経験では、保護者の半数はなんらかの研修経験があるが 22%が「学んだことはない」という回答。青少年は学齢に応じて啓発経験率が上がる傾向にあり、小学生のうちには家庭での啓発が多く、中高と学齢が上がると友人からの学びも増える傾向にある。

啓発経験と正答率の関係では、中高生では啓発経験がない（学んだことはない）場合、正答率も低い傾向。自発的に調べている（自分で調べた）場合、正答率も高い傾向にある。

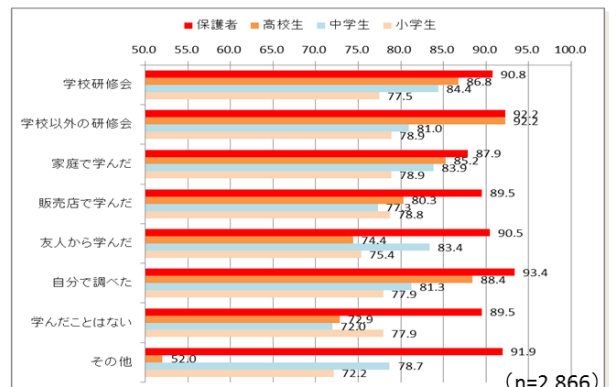
青少年、保護者ともネットモラルを学んだ経験がある人のほうがリテラシーが高い結果となった。

図表 2-4-1. 対象毎の啓発経験別の正答率

◆ インターネットの啓発経験



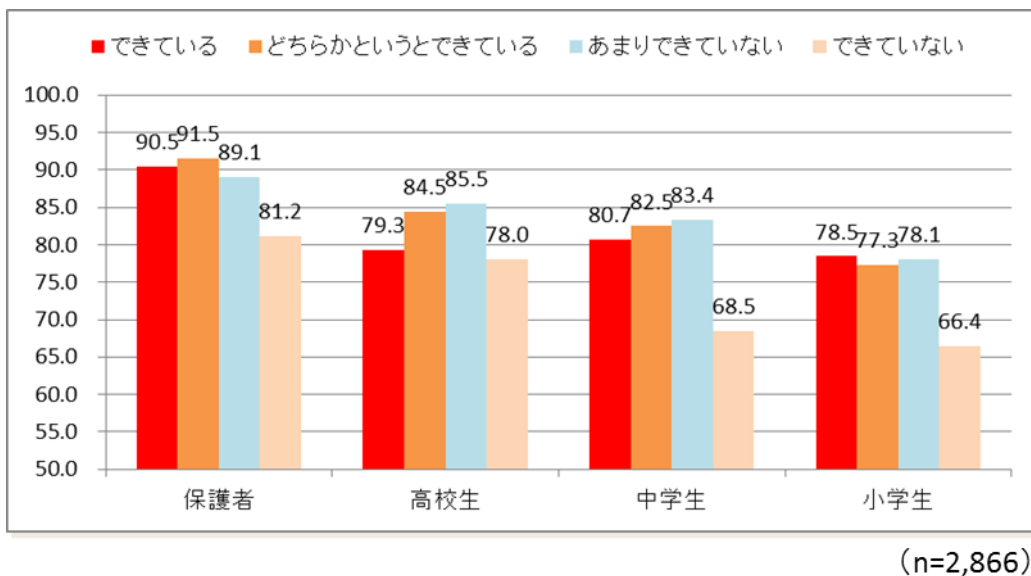
◆ 啓発経験と正答率



2-5. 対象別×インターネットの適切利用自信別の分析

図表 2-5-1 より自分自身がインターネットを適切に利用できていないと回答している場合、正答率も低い傾向にある。

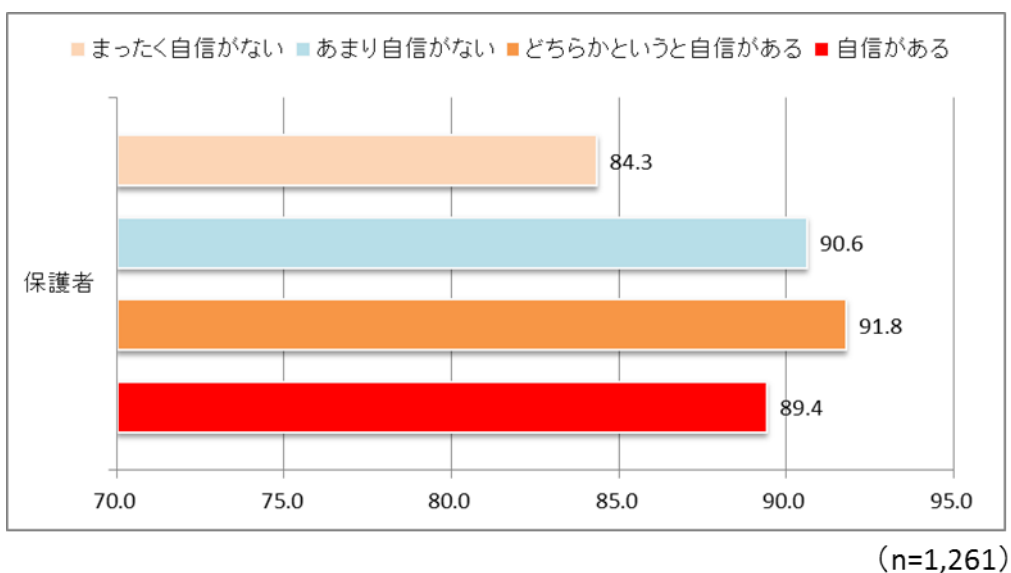
図表 2-5-1. インターネットの適切利用と正答率



2-6. 保護者のしつけ自信×正答率の分析

図表 2-6-1 より、子供のインターネット（ケータイを含む）利用のしつけについては自信がないと回答している保護者の場合、正答率も低い傾向にある。

図表 2-6-1. 保護者の青少年しつけと正答率

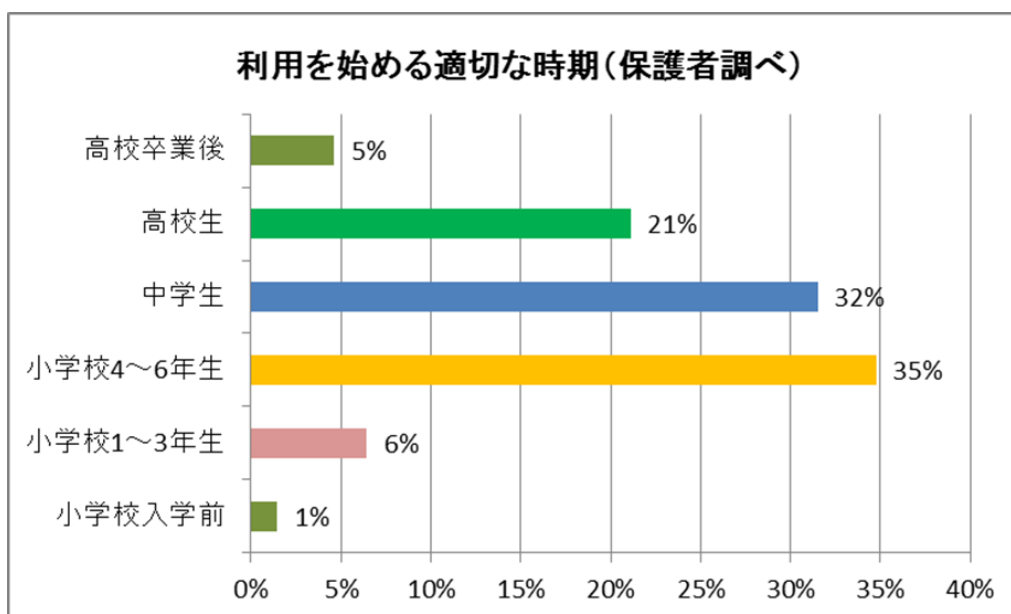


2-7. その他 (参考情報)

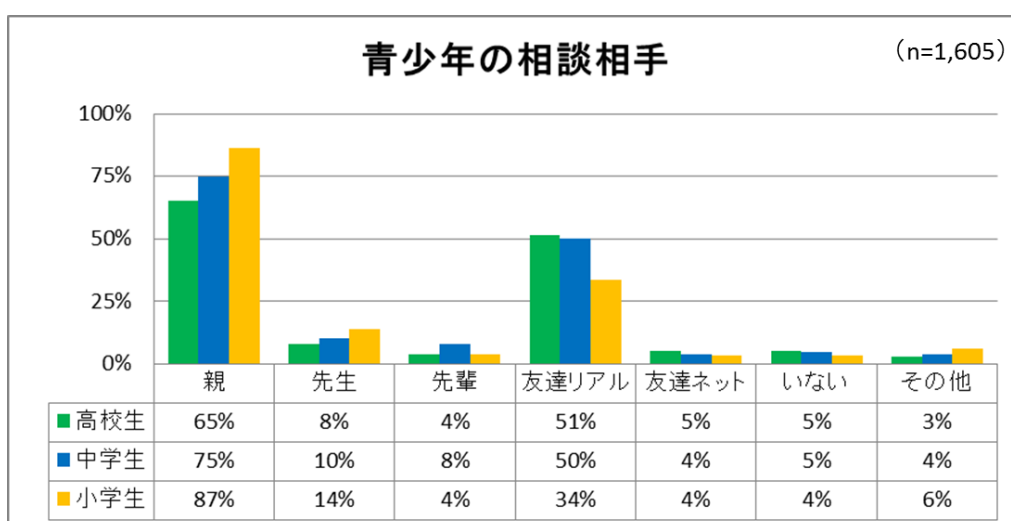
図表 2-7-1 より保護者が考える青少年がインターネットを始める適切な時期については昨年と比較すると小中学生の比率が若干あがっている。社会環境の変化により保護者意識も変化してきていると考えられる。

図表 2-7-2 では、青少年がインターネット利用に関して困ったときに相談する相手（複数回答）を示しており、親の割合が最も多く、年齢が上がるにつれて、友達（リアル）の比率が高くなる傾向が見られる。

図表 2-7-1. 青少年がインターネットを始める適切な時期



図表 2-7-2. 青少年の相談相手（複数回答）



3. 安心協ILASの活動総括

本年度は安心ネットづくり促進協議会関係者の「青少年インターネット健全利用」への啓発意欲とPTA（日本PTA全国協議会・全国高等学校PTA連合会）等の多大な協力によって、昨年度に引き続き約3千人規模（全体の協力者数3,002名：保護者1,327名、高校生365名、中学生601名、小学生709名）のテスト実施から分析までのとりまとめにつなげることが出来た。

昨年度のテスト問題と解説を公開したことにより学校授業やPTA等の研修会にてネット利用理解度の確認やおさらいの為に「安心協ILAS」を実施する事例も出てきており、安心協ILASの普及啓発のためのツールとしての有効性が高まってきている。

3-1. 啓発活動への連携

本報告書「2. 調査結果総論」からの考察、啓発活動への提言は以下の通り。

【保護者に向けて】

- ・ 保護者 90.6%、高校生 83.1%、中学生 81.2%、小学生 77.4%と年齢が高くなるにつれリテラシーは高くなっている。
- ・ 安心協ILASが定めたリテラシー基準において、保護者のリテラシーは低いとは言えない。これは、安心協ILASに定められた情報リテラシーやモラルに関する知識を有していることを意味している。
- ・ これまで言われてきた「保護者のリテラシー不足問題」のトレンドが変化してきていると考えられる。
- ・ 青少年のネットのしつけに自信がある保護者の方が、自信がない保護者よりもリテラシーが高いという傾向にある。このことから、保護者のリテラシーを高めることは、家庭におけるネットのしつけの質の向上に良い影響をもたらすと考えられる。
- ・ 子どもに対する指導に自信がないことについては、以下の要因が考えられる。
 - ✓ 親の目の届かないところでの利用に対する適切な指導方法が見いだせない。
 - ✓ 制限すべきか、子どもを信じてある程度放任すべきかのバランスを決めきれない。
 - ✓ 子どもたちが利用している最新機器、最新アプリ、そこで起きている問題についてどのように対処していいかわからない。
- ・ 以上のことから、保護者に対する啓発教育は、知識習得型の教育よりも、最新機器・アプリを介して起きている問題に関する事例を伝えること、その対処を伝える解決方伝授型教育やベストプラクティスの紹介が有効になると考えられる。

【青少年に向けて】

- ・小学生のテスト問題中の「言葉の意味が分からない」との選択率は、他の年代よりも高い。この結果から、小学生はネットに関連する用語についてはよく分かっていない状況の下で、感覚的にネットを利用していることが考えられる。
- ・このことから、特に小学生年代においては、セーフティゾーンが確保されたネット利用環境が必要と言える。今一度、青少年保護バイ・デザインを考えるべきである。
- ・年代別の利用サービスをみると、高校生においては SNS やコミュニケーションアプリの利用率が高く、小学生では動画が高いと言う結果となった。このことから、各年代に応じた啓発教育内容の決定、保護指導対策を講じていく必要があると言える。
- ・各年代において、啓発教育を受けた経験のある被験者の方が、経験のない被験者よりもリテラシーが高いと言う結果となった。このことから、啓発活動を拡充する方策、各地域で啓発活動を実践できる体制の構築・支援が重要になるであろう。
- ・啓発経験がないと回答した中学生と小学生が、それぞれ 11%という結果となった。これらの年代に対して、あまねく啓発教育を提供する必要があると言えよう。

3-2. 来期に向けた課題

昨年度に引き続き、検討課題は「この活動における分析結果をより多くの対象に対して、どのように啓発活動につなげていくのか」であり、来期の活動においても、啓発に資する調査内容を検討していく必要がある。

本年度においては基本的には設問の大幅な加除修正は行わなかったが、結果的に平均点は全体、リスク分類共、昨年度と変わらない結果となった。

このことをサブワーキングで検討した結果、この理由を以下の3点に集約した。

- ・ネットリテラシーを問う設問自体が、常識の範囲で答えられるものが多い
- ・実施対象（学校・保護者等）のリテラシーレベルにより偏ってしまう可能性がある
- ・正確性のため、無効基準を厳しく設定したことで、正答率の低い対象者を除外した可能性がある

上記を鑑み、今後より正確な調査を行う方向性よりも、本テストを啓発現場で利用する側が使いやすくすることで、実施対象者を増やしていき、啓発側面の効果を拡大していく方向性のほうが妥当であるとの結論に至った。来年度以降は、調査の要素を残しつつ、啓発側面の状況を踏まえて、利用しやすいテスト実施となるように検討を行って行くことにする。

4. 来期の活動方針

小中高生の情報モラル授業や PTA 等の研修会にてネット利用知識や理解度の確認と、知らない知識の提供を兼ねた「ILAS アンケート」実施事例も出てきており、安心協 I L A S の普及啓発のためのツールとしての有効性が高まってきている。来年度も引き続き小学生から大人まで、実施可能かつ短時間で回答できるテスト及び解説集の最新事象への刷新と、各対象のインターネット・リテラシーの経年傾向分析を行っていく。

- 安心協 I L A S の活動方針（予定） -

- ・保護者や青少年に対して最新の事象を出来る限りタイムリーに伝達、確認できるようにするために設問の修正が必要なものは適宜修正を加える。
- ・多くの青少年、保護者に回答いただき、集計を容易にするための仕組みづくりについても討議する。
- ・実施対象はバランスよく実施出来るよう進める。
- ・基本的な調査は、問題数 21 問で行うが、普及のためには問題数が様々なバージョンで展開することは可能とする。
- ・普及啓発活動への援用を考慮し、テスト実施後の分析中間集計結果を早めにフィードバックできるようにする。

		2016 年									2017 年		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
A	テスト問題確認作成			■	■								
B	アンケート作成				■	■							
C	解説集の作成				■	■							
D	実施地の決定				■	■							
E	テストの実施						■	■	■				
F	データ分析（中間）									■	■		
G	中間報告											■	
H	個別フォードバック											■	■
I	最終報告書作成												■

5. 安心協ILAS活用事例

5-1. 普及啓発ツールへの援用

「ネットあんぜん検定」(ソフトバンク株式会社) 2014年2月リリース

ー スマホ、タブレットのフィルタリングアプリ「Yahoo!あんしんねっと」内の1機能としてインターネットリテラシー判定と結果に適した対策方法を紹介。

ー タブレットを活用し地域の行政機関と連携して、小中学生の情報授業の前後での効果検証にも活用

http://www.softbank.jp/corp/csr/internet/instance_02/

「ネットスキル診断」(KDDI株式会社) 2016年3月リリース

ー WEB上でクイズ形式の設問に答えることで、インターネットを安心・安全に利用するための知識を深めることができる。

ー テスト結果に応じたアドバイスが表示されるため、保護者の方がお子さまに安心・安全なインターネットの利用を促す一助としても活用可能。

<http://www.kddi.com/family/shindan/index.html>

5-2. 情報モラル研修の前に実施し現状把握、事後に実施しおさらいに活用

ー 福島県教育センター、福島県立小高商業高校、福島県新地町立尚英中学校

ー 川崎市PTA連絡協議会、北九州市PTA協議会(予定)

5-2. 研究論文への援用

ー 大分県立看護科学大学母性看護学研究室